

## 【研究名称】

協同学習モデルを用いた診療参加型臨床実習の効果的な展開法：実習生による臨床実習プログラム評価に基づく質的検討

## 【研究目的・意義】

本邦における理学療法領域の臨床実習は 2018 年の指定規則改定以降、臨床実習指導を行う際には厚生労働省が定める臨床実習指導者講習会等を修了することが義務付けられました。また、診療参加型臨床実習で臨床実習を実施することが推進されるとともに、さらに、学生が 2 名、臨床実習指導者が 1 名での教育体制である「2:1 モデル」での臨床実習が推奨されています。

2:1 モデルの有効性は先行研究等で示されているものの、指導上の留意点等に触れた研究は少ないのが現状です。臨床実習指導者講習会の演習項目においては「臨床実習プログラムの評価」や「臨床実習指導者の評価」が求められているように、臨床実習施設において、臨床実習後に指導プログラムや実習指導者に対する評価は、その後の実習指導の改善につながり、また、実習指導者の成長にも役立たせることができるものです。当院に於いても、臨床実習教育に 2:1 モデルを用いて実施するとともに、臨床実習後には、2:1 モデルでの臨床実習を実施した学生からの声を聴き、指導方法や指導計画の振り返りを行うことを通して、以降の臨床実習指導の質向上に向けて取り組んでいます。今回、臨床実習後の振り返りに向けた学生インタビューの中から、2:1 モデルの教育効果はどのような場面で促され、逆に困難となる場面では、どこに留意する必要があるかを検討することとしました。これらの教育効果が促進される場面設定や指導困難時における留意点について明らかにし公表していくことは、今後の理学療法教育全体の向上に寄与するものと考えます。

## 【研究方法・期間】

研究実施期間：倫理審査委員会承認後～2028 年 3 月 31 日

調査項目：

- ① 2:1 モデルで臨床実習を実施し、実習終了後に実施した半構造化インタビューの内容
- ② 臨床実習指導者の振り返りのために実施したアンケート結果
- ③ 性別・実習期間

## 【個人情報の保護】

本研究で得られた貴重なデータは学会発表や論文で使用される場合があります。収集したデータに氏名は記載されず、個人が特定されるデータは使用いたしません。

質的データと属性データ、量的データ等を結合し同一実習生からのデータであることを把握できるように整理したのち個人名等を削除することで、連結不可能な匿名化処理を行います。

匿名化されたデータのみ共同研究者である兵庫医科大学大学院リハビリテーション科学研究科日高正巳教授、森明子准教授とデータのみ共有を行う。

※本研究で得られたデータは、臨床実習の評価には影響することはありません。

【研究協力の辞退について】

この研究に協力を希望されない患者様は下記担当者までご連絡ください。研究に協力されない場合であっても対象者様が不利益を被ることはありません。

地方独立行政法人市立吹田市民病院 リハビリテーション科 理学療法士<sup>1)</sup>

兵庫医科大学大学院 リハビリテーション科学研究科<sup>2)</sup>

亀甲健太郎<sup>1)2)</sup> TEL：06-6387-3311 （市立吹田市民病院：代表）

日高正巳<sup>2)</sup> TEL：078-304-3099 （兵庫医科大学大学院：リハビリテーション科学研究科）